

## 2019年度 東京ビジネスデザインアワード テーマ概要(9件)

## 1 生きた細胞をものづくりの材料に変える「細胞ファイバ技術」

株式会社セルファイバ(文京区)

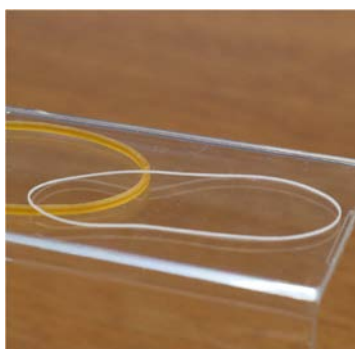


髪の毛ほどの細さの透明なゲルチューブに、生きた細胞や微生物を閉じ込めた「細胞ファイバ技術」は、特許を取得した世界初の技術。規格化された繊維状の部品として、糸のように様々な構造を組み立てることが可能。

このポテンシャルを工学(エンジニアリング)の領域で活用することで、将来的には持続可能な社会を実現し、様々な課題解決が可能となると考えている。

## 2 世界最高レベルの「極細シリコン輪ゴム製造技術」

有限会社精工パッキング(葛飾区)

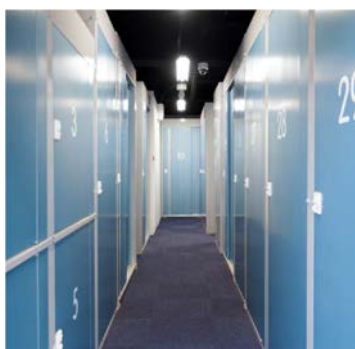


ビクトリア型抜きにより世界最高レベルの極細輪ゴムを製作。通常の輪ゴムが太さ1ミリ程度なのに比べ、この輪ゴムは0.3ミリの細さを実現した。

製造過程で発生した1本の細いゴムヒモのくずに着想を得て、普通のゴムから特殊なシリコンゴムの極細輪ゴムを開発、量産化にも成功。伸び率を高め、耐候性を持たせて劣化・変色しない性質を実現した。腕に巻いてみると肌に触れている感触はほとんどなく、その存在を忘れてしまうほどの着け心地を持つ。

## 3 時間・空間・自由を生む「不動産ソリューションシステム」

押入れ産業株式会社(港区)



初心者や副業でも安心して経営できる「レンタル収納スペース」のフランチャイズモデル。業界初の4つのシステム「スピード契約」「無人見学」「キーレス」「非文書化」を実現し、顧客利便性と稼働率を同時に向上させた。

時間にしばられず、人手や手間をかけずに無理のない経営が可能となり、加盟店から評価されている。運営する側も利用する側も時間にしばられない魅力的なスキームとなっている。

#### 4 あらゆる仕様をユーザーが自由に選べる「ノート設計システム」

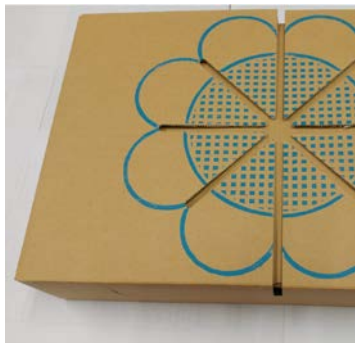
株式会社研恒社(千代田区)



自分のライフスタイルにあったオリジナルノートを、設計・購入できるサービス。  
ノートをカスタマイズする時の選択肢が多いこと、1部から作成できることが強み。大項目「体裁、用紙、罫線、表紙、綴じ方」の5つから、その中の20の中項目を指定。その下にも小項目が選択肢として用意され、何万通りものパターンが可能。「罫線」の項目では、「乗馬」「レスリング」など各スポーツの特徴に合った罫線を選べ、サッカークラブの卒団記念ノートに採用されるなど、スポーツ団体にも多く利用されている。また、企業の周年事業用「記念品ノート」や「趣味のノート」「発想力強化ノート」など、その用途は様々な分野に広がりを見せている。

#### 5 アイデアに富んだ製品を実現する「段ボール加工技術」

有限会社坪川製箱所(葛飾区)



東日本大震災の際に被災地で利用できる「段ボール箱まくら」を開発。「段ボールハウス」は近隣の保育園に寄付し、園児や先生方の反応をヒアリングしアップデートするなど、社会貢献できる商品開発を続けている。  
段ボールは誰もが自由に加工することができて、軽くて丈夫。再利用も可能で廃棄も簡単。さらに安価なため様々なシーンで活用が可能。防災や玩具など、人々の幸せを守り育てる新しい商品へと生まれ変わる可能性をもつ。

#### 6 1ミクロンの精度で削り出す「金属切削加工技術」

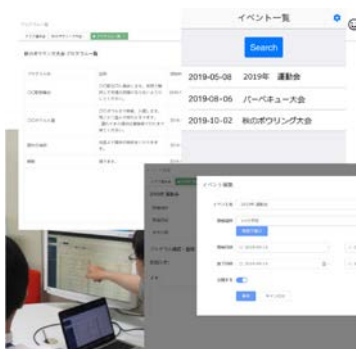
有限会社園部製作所(江東区)



NC旋盤、マシニングセンター、複合加工機等の設備を用いた、1ミクロン(1000分の1ミリ)の精度で可能な金属の精密切削加工技術。鋼、ステンレス、アルミ、真鍮等様々な金属を加工でき、アミューズメントパークの遊具やロケット等、非常に高い精度が求められる部品へ使用されている。  
精密切削部品を数個～数百個つくる小ロット加工を得意とし、自ら治具製作することで、量産化にも対応。長年の経験で培われた技術や経験に加え、最新の機械設備も積極的に導入している。

## 7 運営者と参加者をリアルタイムに繋ぐ「イベントサポートシステム」

株式会社アーク情報システム(千代田区)

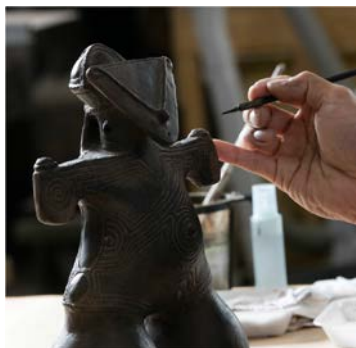


イベント運営者がプログラムをCloud上で作成・配布し、プログラムの進行状況を随時更新できる「イベントサポートシステム」。ユーザーはWebブラウザやスマホアプリからプログラムを閲覧し、リアルタイムな状況把握が可能となるイベント運営に特化した画期的なサービス。

こうしたアプリケーションとデータを管理するWebシステムを構築し、運営者と参加者がイベントを通じてリアルタイムに繋がるためのサポートを行う。

## 8 文化財レプリカ製作で培った「模型製作技術」

株式会社トリアド工房(八王子市)



約50年にわたり培われた、文化財などの対象物を精巧に複製できる高い技術水準やノウハウをもつ。高度なアナログ技術と最新機器を使用したデジタル技術を備え、厳しい条件下でも複製が可能。文化財のレプリカ製作においては、既に存在しているものや文化財をいかに本物と同等に製作するか、また模型造形やジオラマの製作においては過去・現在存在していた世界を「特定のスケールで」いかに忠実に再現するか、ということに注力してきた。

触れられるものは型を取り、触れられない重要文化財などは3Dスキャンを行い、どちらも難しい場合は、原型師が目視で確認し再現するなど、対象物に合わせた対応が可能。

## 9 繰り返し使え、耐久性に優れた「ダンプラシート」

第一合成株式会社(八王子市)



ダンプラシートは段ボールに比べて水に強く、ベニヤ板に比べて軽い。そのため、箱としてだけでなく板材としても使用できる。樹脂製品のためカッターなどで切断可能で、加工も容易。カラーバリエーション、厚みも3mm～5mmと種類も豊富。カーボンを練りこみ、シート全体に通電性能を持たせた導電性のダンプラシートもある。電気を通すことで接地面や空気中に静電気を逃がし、シートへの帯電を防ぐ。それにより、チリやほこりの付着を防ぎ、精密機器を扱う際の放電による静電気破壊を防ぐことができる。自社設備として、熱曲げが可能な熱曲げ機や、自在にカットできるサンプルカッター、箱を作る加工機器がある。

各テーマの詳細は、東京ビジネスデザインアワードの公式サイトをご覧ください。

<http://www.tokyo-design.ne.jp/award.html>